シーエスケイ

切板から鉄骨、製罐・板金まで

群馬に新「厚板一貫加工」拠点

26年春操業 既存工場の機能集約

厚板溶断加工業大手のシーエスケイ（本社・群馬県邑楽郡千代田町大字木崎、社長・坂本純一氏）は、2026年4月頃の操業開始に向け、現在はグループ企業も含めて群馬県内を中心に点在する全事業拠点（一部除く）を集約した新工場を建設する計画だ。本社近傍の千代田第三工業団地内（千代田町）に事業用地6万平方㍍強を取得。工場建屋・事務所棟は、早ければ25年末に竣工し、切板加工から鉄骨製作、製罐・板金の一貫体制を構築する。

25年の工場完成図

最新鋭設備導入を計画

切板一次・二次加工や川下加工製品なども含めた総加工量目標は月産1万㌧規模。

新工場開設に当たり最新鋭加工設備多数の導入も計画しており、30段ストッカーと連動した8×20材対応の高出力ファイバーレーザマシンや37段ストッカーと連動した5×10材対応のファイバーレーザ、開発加工機能を装備した門型ファイバーレーザ、環境配慮型プラズマ切断機などが目玉。一方で同社の「SDGs宣言」に基づく環境経営方針に準拠するため既存のCO²レーザ4台は廃棄する。

同社は建築鉄骨向けを主軸に一般産機向などの切板一次・二次加工を手掛ける独立系厚板シャー大手。積極的な業容拡大で千代田町や太田市など群馬県東南エリアから加須市や熊谷市といった埼玉県北東エリアにかけて大小合わせて工場、倉庫、営業所を構える。

最近はM&Aを含めた事業領域の拡充・深掘りにも力を入れ、傘下には板金・製罐業のTMS（埼玉県加須市と群馬県みなかみ町に工場立地）やユウセイテクノ（群馬県太田市に工場立地）、Rグレードファブの谷津組鉄工所（群馬県館林市）があり、これらも含めたグループ拠点数は大小合わせ10カ所強に上る。

このうちの大半を新工場に移管する計画。1カ所に機能集約することで、まずは安全操業の実現を最優先に、管理体制の向上や生産効率アップ、自動化・省力（人）化促進、環境配慮に根ざしたSDGs経営の推進などに力を注ぐ。総加工量で月産1万㌧が定量目標だが、需要構造の変化や顧客ニーズの多様化も踏まえ「独自の付加価値向上を追求した質の高いビジネスモデルの構築・実現を目指す」（坂本社長）としている。

2024年12月16日（月）掲載
鉄鋼新聞